

S2-6

東日本大震災における「石巻圏合同救護チーム」本部支援活動 ～ 国際救援の経験を通して見えたもの～

名古屋第二赤十字病院 国際医療救援部

いとう あきこ
伊藤 明子

このたびの大震災では、演者は3月11日～15日の5日間、初動班として石巻日赤での救護活動、さらに再度の要請により、3月17日～4月26日の約40日間、石巻圏合同救護チーム本部支援を行った。その活動の概要を報告するとともに、過去の国際救援の経験から今回の救護活動について検討したので報告する。

“石巻圏合同救護チーム”の説明については他の演者に譲るが、演者はこの本部支援として、1) 医療実務のコーディネーション、2) 本部ロジ統括、3) 病院支援コーディネーション等の役割を担当した。

今回、本部支援を行う中で感じた課題は、1) 自己完結型救護の周知徹底、2) 派遣期間の再検討、3) 被災者のニーズに合った医療救護活動、4) 救護班の災害救護についての十分な知識の習得、5) 被災地の初期評価方法、6) 被災地以外からのコーディネーターの長期派遣の必要性等であった。

演者は数多くの世界の大災害で、ERUによる救護活動の経験から多くのことを学んできた。例えば、特別なチームによる被災地の初期アセスメントの必要性、現地のニーズに応じた継続的な活動期間の設定、自己完結型救護活動の徹底、災害のフェーズに応じた救護活動の展開、コーディネーションチームの存在等である。

今回の石巻圏合同救護チーム本部支援活動を行う中でいくつかの課題が明らかとなった。今後の災害救護活動を考える上で、過去の国際救援で学んだ経験を活用することは重要であり、今回そのような視点で救護活動を報告したい。